

愛育

発行 恩賜財団母子愛育会大分県支部
大分市大手町3丁目1-1
大分県福祉保健部
健康増進室
TEL 097(506)2790
FAX 097(506)1730

声かけ目をかけ愛の手で
明るい豊の国を築きましょう。
地域みんなのしあわせを願って
愛育の心でまちづくりをしましょう。

名誉支部長

あいさつ

恩賜財団母子愛育会大分県支部
名誉支部長 佐藤 靖子



今回、初めて大分県愛育推進大会に出席し、尾島県支部長さまをはじめ県内各地から参加された愛育班や関係者の皆さまとお会いできました。また、大分県支部設立から40年以上の永きにわたり、各地で、乳幼児からお年寄りまで、全ての世代の健康と幸せのために、熱心に活動が続けられている皆さまに改めて敬意を表します。

大会では、豊後高田市の田染愛育会さまをはじめ、各愛育班の皆さまが、地域の特性にあわせて工夫を凝らし、課題に向き合い、様々な団体の方々と連携し、活動の輪づくりを大事にしなが実践されていることを大変興味深くお伺いしました。

こうした中、先日、65歳以上の高齢者が一人で暮らす割合が、これから高くなるとの推計が発表されました。この大きな課題を、大分県全体で乗り越えるためには、愛育班の活動がますます大切になってくるでしょう。私も微力ではございますが、皆さまと一緒に力を尽くしたいと思っています。

地域における愛育活動が、「声かけ目をかけ愛の手で、明るい豊の国を築きましょう。地域みんなのしあわせを願って。愛育の心でまちづくりをしましょう。」のスローガンの下、今後ますます発展し、愛育の心が引き継がれますよう願っております。

支部長あいさつ

恩賜財団母子愛育会大分県支部
支部長 尾島 京子



梅、桃、桜と季節は移り、春のいぶきを感じています。班員の皆様、お元気で過ごしていることでしょうか。

さて、令和6年7月23日に大分県愛育推進大会がコロナ禍以来、恩賜財団母子愛育会大分県支部名誉支部長佐藤靖子様をお迎えし、皆様と県庁にて一堂に会することが出来、大変うれしく思っています。また、愛育班員においては、杵築市山香愛育班の安倍綾子氏、国東市武蔵町愛育OB会の末清明美氏、豊後大野市愛育会の後藤景子氏、穴見ムツヨ氏、玖珠町愛育健康づくり推進協議会の山田聖八氏、豊後高田市香々地愛育会の藤原秋雄氏、豊後高田市真玉愛育会の弓崎尚武氏の7名、育成者においては、豊後大野市市民生活課の志賀由美氏、玖珠町子育て健康支援課の尾島真理子氏の2名が県知事感謝状を授与されました。おめでとうございます。今後ともご指導、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。活動報告は豊後高田市健康推進協議会（田染愛育会）が地域の高齢化が進む中、活動の火を消さないために、地域と連携しながら活動する力強い思いの報告を受けました。また、今回は、スライドとナレーションによる各愛育会の活動が発表され、自分たちの健康は、自分たちで守る、地域との繋がりを、声かけを実践し、皆が安全で安心な生活が送れる場所づくりに各々が奮闘し、努力している様子が手に取るように感じられました。今後も各会が参考になることなど協力し、繋がりを持ちスクラムを組んで良

愛育事業功労者表彰 知事感謝状を受賞して

杵築市山香愛育班
安倍 綾子



杵築市山香愛育班が活動を始めたのは、昭和52年のことです。初代班長の岩尾簪子さんが県の理事を務められ、山香町内全ての地域に愛育班の組織を広げ、活動の基礎を築いてくださいました。私も当初、班員さんの車に便乗させていただき山浦地区学習会に参加しました。行政の保健師さんと共に、愛育班活動と健康で住みよいまちづくりの基本理念を学ばせていただきました。

平成30年4月に山香愛育班40周年記念誌を発行し、令和に入り、コロナ禍で

活動が思うようにできない時に、山香中学校生徒会へ手作りの廃油石けんを贈呈しました。その後、山香町内の各こども園にも廃油石けんを差し上げ、大変喜んでいただきました。

また、毎年の山香ふるさとまつりでは、廃油石けんの無料配布を続けており、市民の方々の環境問題に対する意識の広がりにも寄与してまいりました。

さて、この度知事感謝状を受賞いたしました。これもひとえに、地域の愛育班活動に楽しく取り組んでこられた多くの先輩方愛育班員の皆さまのおかげと感謝いたしております。最近はお話の方々が愛育班に加入してくださり、うれしい限りです。

今後とも地道ながら歩み続けていきたいと思っております。まずは、自身の健康を基本に、そして、地域の皆さまと交わす笑顔を第一に、これからも愛育班活動に末永く取り組んでまいりたいと思っております。皆さま、ありがとうございます。

国東市武蔵町愛育OB会
末清明美



令和6年7月23日県庁正庁ホールにおいて、第40回大分県愛育推進大会が開催され、知事より感謝状をいただきました。本当にありがとうございます。

私は、武蔵町の会長を経て、武蔵町愛育OB会の一員として現在まで諸先輩方のご指導のもと、より良い活動をめざして愛育会活動を続けています。

武蔵町愛育OB会では昭和61年に創設され、当初は50名の会員で活動も幅広く活発にされていたと聞いています。しかし、現在は会員の高齢化や分班数の減少により数名での活動となつています。主な活動としては、近所の一人暮らしの方への声かけ・見守りはもちろんのこと、町内で新しく生まれた赤ちゃんへ、すこやかな成長を願いスタンプ（よだれかけ）と班員手作りのおもちゃを持って各家庭を訪問し、お渡ししています。

平成28年11月17日、恩賜財団母子愛育会総裁の秋篠宮紀子様の武蔵町への

豊後大野市愛育会

後藤 景子



ご訪問を受けた際には、愛育会での活動の様子を寸劇として作成し、上演することができました。上演後は、紀子様より「石垣もち」について話を聞きました。また「石垣もち」について話を聞きました。また「石垣もち」について話を聞きました。

「石垣もちとはどんなものですか？」との質問に、皆ドギマギしながらお答えしていたことが忘れられません。

高齢化と共に会員の減少は避けられませんが、地域のみんなのしあわせを願う愛育のところで、微力ですが、今後も活動が続けていきたいと思っています。

佐藤大分県知事より感謝状をいただきました。本当にありがとうございました。本当にありがとうございました。千歳分班の皆様にはあらためてご報告と感謝を申し上げます。

私のボランティア活動の原点は愛育会です。

私が千歳に嫁いで来た頃、全戸加入の愛育班活動が盛んでした。その時仕事を口実に班長をお断りしました。いつしか大変申し訳なかった、いつか地区のためにと思うようになり、区、市、県、国の各団体と再会したのは、ずいぶん後のことです。活動内容も形態も以前とは全く違っていました。入会を誘われた時は、本当に嬉しかったです。入会後は子ども達の喜ぶ顔を見るのが楽しくなりました。しかし、分班長会議に出席するようになると私の思う愛育活動とは違う現実が戸惑い、悩まされました。そんな時、先輩会員の言葉に励まされ救われました。お陰で今日まで続けてこれました。その上、表彰をいただけるというこんな嬉しいことがありました。

私は「愛育のこころ」のこの一文が大好きです。「時間がなくて人はいないけれど、その気になれば時間はつくれます。要はその気になるということです。」私の生涯の目標そのものです。だからいつも自分に向かって読みあげます。

これからも会員の皆様と、楽しいボランティア・愛育活動に励みたいと改めて思っています。

豊後大野市愛育会

穴 見 ムツヨ



この度、八十路坂を越えて、愛育事業功労者表彰で県知事より感謝状を頂き、思いがけないことで大変嬉しく思っています。

平成22年に町の推進事業で子育て支援講座が開かれ、「これからの子育てとは」に興味をもって受講しました。子育て支援会員から次第に愛育会員と移行し、先輩会員、保健師の指導のもと、常に愛育の心を大切に活動しています。親子交流事業では子育て中の御両親の一生懸命な姿と笑顔にふれ、懐かしさや羨ましが交差しますが、大好きな乳幼児の姿にふれ合い、抱っこさせて頂いたり、遊んだりして癒され心身共に元気をもらい感謝です。地域では毎年学童の夏休み中に地域住民のふれあい会を行っています。高齢者の皆さんは、久しぶりのふれ合い会を楽しみ、子どもから元気をもらって生き生きとされています。安心して住民に見守れながら子育てが出来る地域であり、高齢になっても皆さんが住み慣れた場所で暮らせるように、笑顔で声をかけ、少しでも地域の皆様の役に立ち喜ばれるように心がけています。出来る限り、自分自身の健康も兼ねて、ウォーキング名目で地域を廻り、見守り、声かけを行っています。これからも元気で続けようと思っています。各役員、保健師の皆さまにおかれましては各事業計画、指導、実行等に尽力され常に感謝しております。ありがとうございます。

玖珠町愛育健康づくり推進協議会

山 田 聖 八



この度は佐藤樹一郎県知事より愛育班活動に対する感謝状を承り、とても驚くと同時に大変身に余る光栄なことだと恐縮して

いるところです。改めて関係各位に敬意を表し感謝申し上げます。

私は平成25年度に初めて自治区の健康づくり推進委員(当時は保健委員)になったのと同時に玖珠地区の幹事という役を頂きました。それまでは健康や福祉等あまり意識をしたこともなく、右も左もわからない者が地域のお世話など出来るのかと、とても不安に感じていたのを記憶しています。そして偶然その年の5月に玖珠町が愛育会に加入して活動がスタート致しました。平成27年度からは玖珠地区の事務局長として現在に至っていますが、その間何か特別なことをしたわけではありません。ただ会長以下役員さんや担当の保健師さんと協力しながら事業をするのと何かしらのお役に立てているのかなと感じているところです。

この12年間の活動の中で私にとって一番の財産はやはり人とのつながりです。地域の人や他地区の役員さん達との交流がとても重要で、いつの間にか活動の中に楽しさを感じていたりもします。また、この愛育班活動のおかげで現在取り組んでいる集落支援員の仕事や有償サービス組織の運営に大変役に立っています。

最後になりますが、この賞に驕ることなく今後も人とのつながりを大事にし、出来る限り愛育班活動を続けていければと思っています。この度は本当にありがとうございます。

豊後高田市香々地愛育会

藤 原 秋 雄



この度の大分県知事感謝状授与の栄誉にあたり、ひと言御礼を申し上げます。思い起こせば香々地愛育会が発足して早10年の時が経ちました。当時、香々地民生委員会会長をさせて頂いていましたので、(当時の)豊後高田市ウエルネス推進課長伊南氏から「健康で安心して暮らせ

る地域づくりをめざして愛育会を作りましょう」とお話がありました。民生委員全体会で伊南氏のお話を聞いて、委員全員が賛同してくれました。さらに、伊南氏はすべての団体、組織を説得して準備会を立ち上げました。準備会でも何度も協議を重ね、議論しました。そして平成25年7月香々地愛育会が誕生しました。会員の活動は「声かけ・見守り」を基本に、それぞれの会員が創意工夫をしながら取り組んでいます。その一つは、子育て支援事業です。夏場のそうめん流し、地域の方々と協力して行う花いっぱい運動、エコキャップ収集などを行っています。

愛育班活動をする中で、うれしく感じるのは、顔を見るのが遠のいた時に、逆に心配してくれる時です。十年ひと昔と言いますが、年を重ねると、どうしても誰かの手を借りることが増えます。会員の我々も同様に、弱って活動が鈍くならざるを得ません。「声かけ・見守り」活動を続けていくためにも、若い班員が必要です。今後の課題だと思います。

今後も「健康で安心して暮らせる地域づくりをめざして」をモットーに微力ながら、力をつくしたいと思っています。引き続きご支援、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

乱筆乱文にて甚だ申し訳ありませんが、お礼に代えさせて頂きまします。ありがとうございます。

豊後高田市真玉愛育会

弓 崎 尚 武



第40回大分県愛育推進大会にて、大変重責ある賞を頂き恐縮しております。私には過分な賞ですが、思いますと今回の受賞は、私個人より、会の班員また役員の方々と行政の保健師さんや担当課の地道な支援とご指導があったからだと感謝しております。

真玉愛育会は、特に高齢者と一人暮らしの方々には地域で安心して暮らしてほしいとの思いから、愛育班員は日頃から声かけ、目をかけて、地域の方々の幸せを願い、愛育活動の意義を確認しています。私たち班員は定期的に行政の方々と地域の課題を再確認し、高齢者や子ども達との「ふれあい交流会」を開いています。そして活動が、まだまだ広がっていくよう、「よって話そう会」や健康学習会を行っています。高齢化が進み班員が減少するなか、岩永会長のもと研修会の開催など地域と行政が一体となり班員の増加に取り組みたいと思います。

この度は本当にありがとうございます。

愛育班活動を 通して 活動報告

竹田市久住愛育保健推進委員会

会長 釘 宮 恒 憲

令和6年12月15日(日)、「雪っこ」の名のごとく、会場の辺り一面に雪が残る中、「第16回雪っこカーニバルin久住」が盛大に開催されました。

世代間交流と世代の持つ力を伝え合うことを目的とし、雪っこカーニバル実行委員会が案を練り、17団体と協力して開催する「手作りの祭り」です。それぞれ担当分野があり、子どもと保護者はそれに参加することで、世代を超えた交流の場となっています。昼食は食生活改善推進協議会(みつわ会)手作りの野菜たっぷりカレーを堪能し、その後の餅まきは大好評、最後はサンタクロース(愛育保健推進員担当)によるプレゼント配布で閉じとなります。協力スタッフからは「年に1回の交流の場を続けたい」、また参加した子どもたちからは「日頃できないことが体験できてよかった」という声が聞かれ、成功裏に終わることができました。

少子化が進む中、学校統合もありましたが、久住地域出身の中学生とその友達のボランティア参加があり、地域を越えた交流も図ることができました。幼児期に参加していた子どもたちがボランティアとして参加し、次世代に引き継がれている姿を頼もしく思いました。

これからも、日頃からの見守り声かけ活動とともに、各団体と知恵を出し合いながら、交流の場を続けていきたいと思っています。



雪っこカーニバルの様子



編集後記

佐藤名誉支部長様におかれましては、心温まるメッセージをお寄せいただき、誠にありがとうございます。お言葉を励みに今後も班員一同頑張っていきたいと思っております。

(尾島・瀧口・羽田野・小野・吉藤)